

会議議事録

会議名	平成 30 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会
開催日時	平成 30 年 7 月 26 日 (木) 13 : 00～15 : 00
場所	本校 704 教室
出席者 (敬称略)	<p>① 企業等委員：須貝和則（国立国際医療研究センター医事管理課長）、横堀由喜子（日本病院会学術部長）、山室 靖（東京衛生病院医事課課長）、直井智之（東大和病院事務部長）（計 4 名）</p> <p>② 本校委員：橋本正樹（校長）、宮下明久（事務局長）、吉川 香（医療事務系学科統括兼医療秘書科学科長兼医師事務技術専攻科学科長）、村山由美（医療秘書科副学科長）、黒田 潔（医療マネジメント科学科長兼診療情報管理専攻科学科長）、三宅かおり（医療マネジメント科副学科長兼教務委員長）、河村和恵（医療事務教科系研究会リーダー）、江崎侑子（診療情報管理専攻科教員）（計 8 名）</p> <p>③ 事務局：松本晋圭、川内靖美（計 2 名）</p> <p>④ 記録：小田真理子（合計 15 名）</p>
欠席者	なし
配付資料	<p>① 事前送付：□No.1：平成 30 年度医療事務分野教育課程編成委員会名簿、□No.2：平成 29 年度第 2 回本委員会会議議事録、□No.3-1：平成 29 年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検大項目）、□No.3-2：医療秘書科、医療マネジメント科、専攻科の平成 29 年度学科運営計画の年度末点検報告、□No.3-3：平成 29 年度第 2 回委員会以降の主な経過報告、□No.3-4：平成 30 年度校務分掌、□No.3-5：平成 30 年度クラス担任一覧、□No.3-6：平成 29 年度就職状況報告、□No.3-7：平成 30 年度「ワセダキャリアサポートプログラム」スケジュール例、□No.3-8：平成 30 年度特別講演会実施報告、□No.4：平成 30 年度重点目標と達成するための計画・方法、□No.5：平成 30 年度教員研修計画・実績、□No.6：平成 30 年度学科運営計画、□No.7：2019 年度カリキュラム（案）</p> <p>② 本日配付印刷物：□平成 30 年度講義要項、□平成 30 年度学生生活ガイド、□2018Challenge 就職活動ノート、□2019 SOKKI SCHOOL GUIDE</p>
委員長	橋本校長
議題等	<p>1. 今年度委員の確認及び本日出席者の紹介 事務局より、資料No.1 に基づき今年度委員の紹介が行われた。診療情報管理専攻科教員の江崎侑子が新任、事務局担当が高橋から松本になったことについて報告が行われた。</p> <p>2. 校長挨拶 10 年ほど横ばいだった 18 歳人口がまた減少期に入り、高等教育機関では 2018 年問題と言われている。大学については再編等の激しい動きが起きているが、本校ではここ数年、既存学科の改廃、社会人、外国人を対象とした新たな教育を視野に入れた教育再編計画を推進してきた。</p>

高校新卒者を対象とする専門課程の学生募集活動は今後ますます厳しくなると予測されており、本校の医療事務系の教育においても、近い将来は既存の専門課程の教育に加えて外国人を対象とした教育、既卒者を対象とした学び直しの教育にも踏み出すべきであるという声もある。しかし、まずはこれまで進めてきた医療事務の高度化に対応するためのカリキュラムの再編計画を進め、2年制学科の卒業生を対象とした1年制の専攻科教育、医療情報系分野への教育の拡大、充実を図っていきたいと考えている。

委員の皆様には、医療事務の仕事の現在と将来について、専門家の視点から貴重なご意見を賜りたいとの挨拶が行われた。

3. 前回委員会議事録の確認（説明者：事務局川内）

前回議事録（資料No.2）について、訂正等がなければ確認し、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく確認、了承された。

4. 平成 29 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成 29 年度重点目標の年度末点検報告（説明者：橋本校長）

資料No.3-1 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(2) 医療事務分野各学科の平成 29 年度学科運営の年度末点検報告（説明者：吉川学科長、黒田学科長）

資料No.3-2 に基づき各学科の報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(3) 平成 29 年度第 2 回委員会以降の主な経過（説明者：宮下事務局長）

資料No.3-3～3-7 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

(4) 特別講演会実施報告（説明者：黒田学科長）

資料No.3-8 に基づき報告が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

5. 平成 30 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）

資料No.4 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

6. 平成 30 年度教員研修計画・実績について（説明者：三宅教務委員長）

資料No.5 に基づき説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

7. 平成 30 年度の教育活動と学科運営、計画等について（説明者：吉川学科長、黒田学科長）

資料No.6 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

8. 平成 31 年度生カリキュラム編成等について（説明者：吉川学科長、黒田学科長）

資料No.7 に基づき各学科の説明が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

9. 全体を通しての質問・意見・提案と意見交換等

本校委員と事務局による議題8までの報告、説明終了後、企業等委員から全体を通しての質問、意見、提案があり、意見交換が行われた。詳細は別紙のとおり。

10. 次回日程、その他

事務局より、本委員会は年2回の開催で次回は2月を予定、10月に日程調整を行う旨、事務連絡が行われた。

最後に、橋本委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、次回への協力依頼があり、閉会した。

以上

平成 30 年度第 1 回医療事務分野教育課程編成委員会の主な討議内容

4. 平成 29 年度第 2 回委員会以降の主な活動報告等について

(1) 本校の平成 29 年度重点目標の年度末点検報告

○橋本校長より、資料No.3-1 に基づき以下の報告が行われた。

① T P C の育成と強化

・授業以外のさまざまな場面で学生が自主的に学ぶ仕組みをつくり、T P C の能力向上を推進した。

② 退学防止

・年間退学率は目標を達成した。A O 入試入学者に対して重点的に行った対策が功を奏した。

③ 教員研修及び授業公開の推進とインストラクションスキルの向上

・教員研修は年々成果を上げている。

・授業公開は常勤教員だけでなく兼任教員の授業公開の流れもでき、大きく前進した。

(2) 医療事務分野各学科の平成 29 年度学科運営の年度末点検報告

(ア) 医療秘書科

○吉川学科長より、資料No.3-2 に基づき以下の報告が行われた。

・退学防止に向けていろいろ手立てを講じた結果、退学者が減った。検定試験の合格率も以前を上回り相応の成果が得られたので、対策が成功したのか偶発的な結果なのかを確認すべく、今年度も昨年度同様の対策を講じていきたい。

(イ) 医師事務技術専攻科

○吉川学科長より、資料No.3-2 に基づき以下の報告が行われた。

・設立初年度の昨年度、専門性の提供に励んだ。その結果、学生自身の意欲と理解度が深まったと認識している。専門分野への就職を目標に掲げていたため、早い段階で進路決定につながりもできた。

(ウ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料No.3-2 に基づき以下の報告が行われた。

・平成 29 年度は入学者数が増えた。医療マネジメント科からつながっている診療情報管理など、医療分野の高度化を志向する学生が入学したと考えている。

・専門分野のほかに、患者対応、職場の人間関係など社会人化教育分野のカリキュラムを導入した。

・経済的困難、心身の不調、学力不足、曖昧な入学動機等、多様な背景を持つ学生の指導は困難な部分があるが、教員がきめ細やかに指導に当たっている。

・退学率は平成 28 年度に比べると若干低下した。

・専門分野の検定は、年度当初に設定した目標に沿って指導している。

・基本的学びを修得し志向性を持った学生が診療情報管理専攻科に進学するシステムにしている。

・求職者に対する内定率はほぼ 100%で推移している。

(エ) 診療情報管理専攻科

○黒田学科長より、資料No.3-2 に基づき以下の報告が行われた。

・日本病院会のカリキュラム改変に伴い、前年度からカリキュラムの編成を行っている。

(3) 平成 30 年度第 2 回委員会以降の主な経過

○宮下事務局長より、資料No.3-3～3-7 に基づき以下の報告が行われた。

1. 平成 30 年度の組織運営関連

- ・平成 30 年度校務分掌 (No.3-4)
- ・平成 30 年度クラス担任一覧 (No.3-5)
- ・平成 30 年度学事日程 (学生生活ガイド P3~4)
- ・平成 30 年度オープンキャンパス日程 (SOKKI SCHOOL GUIDE P89・90)

2. 学校関係者評価関連 (No.3-3)

- ・3/17 平成 29 年度第 3 回学校関係者評価委員会開催。
- ・7/21 平成 30 年度第 1 回学校関係者評価委員会開催。

3. 学生の状況関連

(1) 退学者数 (No.3-3)

- ・年間退学率は目標を達成した。

(4) 特別講演会実施報告 (No.3-8)

○黒田学科長より、以下の報告が行われた。

- ・医療秘書科、医療マネジメント科の 1 年生に対して、病院の方に講師をお願いし、医療分野についての知識を深め今後の指針とする目的で特別講演を毎年実施している。アンケート結果から、目的は達成できたと思っている。

○質問と回答は以下のとおり。

質問・意見等	回答等
<input type="checkbox"/> 画像の読み取りなどはA I でなく人がやらなければならないか。	<input type="checkbox"/> 最終的に人が介入しなければならない。 <input type="checkbox"/> A I はがんに反応するかもしれないが、カルテで経過を見るので、診療録の見方がわかる人間が必要になる。 私のところでは、がん登録に入れて診療情報管理士がチェックする方法に移行している。

5. 平成 30 年度の重点目標と達成するための計画・方法について (資料No.4)

○橋本校長より説明が行われた。

- ・T P C の育成と強化は引き続き進めていく。退学防止、教員研修は目標を達成したため平成 30 年度の目標から外し、将来を見据えた 2 つの目標を設定した。

① T P C の育成と強化

- ・授業を初め学校行事やマナー指導の機会、入学前指導等において、今年度も引き続き推進していく。

② 学び直しの教育プログラムの開発

- ・職業教育の観点から、高校新卒者以外の社会人にも対象を広げた学び直しと外国人対象の教育を具体的に考える。

③ ビジョンの共有とアクションプランの策定

- ・学校の進むべき道を経営陣だけでなくすべての教職員がベクトルをそろえて見つめていくための会議の見直し等、業務を活性化する方法を考える。

6. 平成 30 年度教員研修計画・実績について

○三宅教務委員長より、資料No.5 に基づき以下の説明が行われた。

- ・研修の参加件数は増加傾向で推移している。
- ・8月に教務委員会主催による1日研修を行う。計6時間の研修は初めての企画である。
- ・昨年度開始した外部研修受講補助のシステムを今年度も運用している。外部研修受講補助費の申請書は、報告書の提出も求める形に変更した。
- ・外部研修の今年度の特徴として、事務職員の申し込みが増加している。
- ・研修内容の共有をこれまでの課題としていたが、昨年度末、教職員全体会の場で一部について伝達研修を行った。この試みは今後も続けていきたい。

7. 平成30年度の教育活動と学科運営、計画等について

(ア) 医療秘書科

○吉川学科長より、資料No.6に基づき以下の説明が行われた。

- ・医療分野は人間が活躍する場をA Iに奪われるのではないかという危惧が持たれているが、ヒューマンスキルをさらに高めてA Iと共存して活躍する人材を送り出していきたい。
- ・各検定試験は、昨年度と同様に、6月ではなく11月に受験する。
- ・現時点で退学者は出ていない。
- ・検定試験合格率は昨年度同様、または昨年度を上回る結果を目指したい。
- ・入学時からグループワークを取り入れている。1年生のホスピタルショウ見学は、グループごとに行い、準備段階からスムーズに進行した。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料No.6に基づき以下の説明が行われた。

- ・近年、入学者数の増加により在籍者数が増えている。その対応に力を注いでいる。
- ・教育目標として、患者対応のスキル、ホスピタリティ、コミュニケーション力を専門分野の教育と同様に重視している。
- ・オリエンテーション、フィールドワーク、学校行事、担任の指導によって退学率の低下を図りたい。
- ・特別講演、診療情報管理士分野の若手教員の活用によって早い段階から診療情報管理専攻科への進学を促したい。
- ・病院事務実習は、事前オリエンテーションの内容を改変する必要があると考えている。
- ・就職支援については、内定率100%を目標とし、キャリアサポートセンターと協力してよりよい就職を目指していきたい。

(ウ) 診療情報管理専攻科

○黒田学科長より、資料No.6に基づき以下の説明が行われた。

- ・運営計画に大きな変更点はない。
- ・カリキュラムにおいてはパソコン教育の充実を図っている。

8. 2019年度生カリキュラム編成等について

(ア) 医療秘書科

○吉川学科長より、資料No.7に基づき以下の説明が行われた。

- ・キャリアサポートプログラムは就職活動を主眼に置いているが、言葉遣い、気遣い、人とのかかわり方など、就職活動以外の部分を含めて構成を見直したい。
- ・平成30年度から必修科目として始めた「介護保険の基礎」は、障害者に対する気遣い、行動パターン

ンの理解など地域包括システムを意識した内容に変更することを検討したい。

- ・平成 30 年度後期に選択科目として始まる「医療 P C インストラクションスキル」は、手直しが必要になれば検討したい。
- ・カリキュラムは 8 月ぐらいまでにさらに見直しを図っていきたいと考えている。

(イ) 医療マネジメント科

○黒田学科長より、資料No.7 に基づき以下の説明が行われた。

- ・日本病院会のカリキュラムに対応した。
- ・パソコン系の科目は、2 年次の診療情報管理士コースと医療事務スペシャリストコースそれぞれに対応した内容に改変した。
- ・コーディングの授業を若干組みかえた。
- ・診療情報管理士認定試験対策の科目を盛り込んだ。
- ・修得時間数について、医療事務スペシャリストコースは、従来どおりの 1770 時間、診療情報管理士コースは 1860 時間から 1800 時間に変更した。

(ウ) 医師事務技術専攻科

○吉川学科長より、資料No.7 に基づき以下の説明が行われた。

- ・医師事務技術専攻科は昨年度が設立初年度であるため、今後、ブラッシュアップを図っていききたい。

(エ) 診療情報管理専攻科

○黒田学科長より、資料No.7 に基づき以下の説明が行われた。

- ・1 年間で効率よく資格を取得させる、スキルを身につけさせるという点から、修得単位・時間数について、今年度までの 60 単位 930 時間から 54 単位 840 時間に変更した。

○江崎教員より、資料No.7 に基づき以下の補足説明が行われた。

- ・D P C 実践、がん登録、パソコン教育の 3 点を変更した。
- ・D P C 実践は、以前までは簡単なカルテやレセプトを見て、一つしかない病名から診断群分類を決定するという授業を行っていたが、現場では複数の病名から資源病名を選択する考え方が重要であるため、そのように内容を変更する。また D P C における各ファイルを作成もしくは出力し、データ分析、加工までの一連の流れも取り入れたい。それに伴って「医療データ分析」についても、D P C データの各様式から主要なクリニカルインディケータを正しく出せるような内容を考えている。
- ・がん登録は、今年度まで 2 年次半期のみの授業だが、それだけでは院内がん登録の初級者認定を卒業後に受験する場合自主学習をするには難しいため、院内がん登録の初級者認定を卒業後に取得するための対策的な内容も含めたものとする。
- ・パソコンについては、今年度から 2 年次の時点でデータベースまで勉強し、M O S Access 検定を全員に受験させているが、実務でのデータベースの生かし方など実践的な能力が不足していたため「マイクロソフトオフィス応用演習」を加えた。
- ・「病院マネジメント I」「病院マネジメント II」については、地域医療構想や地域包括ケアという状況があるので、講義だけでなくグループワークでの調査、発表により、知識を正しく活用し定着を図る授業を考えている。

9. 全体を通しての質問・意見・提案と意見交換等

(1) 企業等委員からの意見、提案等

- ・学び直しの教育は今必要なことで、事業的に拡大するというのもの射た話だった。

- ・私どもの病院では外国人の患者もいるため、基本的な英語力について検討を提案したい。
 - ・私どもの病院では、他の専門学校から入ってきた者は院内がん登録の初級者認定を取ってきている。優秀な者にはがん登録の初級者認定、医療情報技師の資格をとらせるというように、成功者をつくれればよいと思う。
 - ・さまざまなデータを取り扱う診療情報と医師事務の仕事が病院の運営にどう結びつくのか、将来的におもしろみにもなるところがある。
 - ・発表のスキルを備えているといいと思う。
 - ・医師事務作業補助者は作業補助というイメージを持たれるが、作業補助だけではない病院のデータを取り扱うスタッフ像を早くつくって活性化させる必要がある。
 - ・診療情報管理や医師事務作業補助は医療事務の延長線上にない別の分野に入りつつあるという感想を持っている。それぞれの働きを病院側として明確にする必要がある。学校側にも、そういった視点のカリキュラムが入っていればよいと思う。
 - ・私どもの病院では、診療情報管理士と、診療情報管理士の資格を持ちながらも医療事務に就く人に分かれるが、どちらもデータを扱う領域がかなり増えてきている。Excel だけで処理できない大規模なデータを扱うので、Access の教育もしていただけると助かる。業務効率を上げるためのソフトのカスタマイズにも、ぜひ力を入れていただきたい。
 - ・全国的な普及のために日本病院会の通信教育を Web 化する。
 - ・最近の若い人たちは以前とは違って、書いて覚えろと幾ら言っても書かない。画面上での選択式にすると意外とできることがあるので、選択式のほうが覚えやすいと思う。通信教育の Web 化はその一環でもあり、携帯でいつでも見られる形にすれば覚える可能性があると感じる。学校でも共有していただけたらと思う。
 - ・今年は日本病院会の通信教育受講生が増えた。診療情報管理士の仕事はもう要らないのではないかという人もいるが、逆に、国からの要求、病院内での要求がこれから増えていくのではないかと思う。
 - ・最近の人はちょっと注意されただけで泣いて、すぐに退職してしまう。社会に出てからコミュニケーションがとれる人、注意されても頑張ることができる強い人を育てていただきたい。
- (2) 本校委員からの質問等と企業等委員からの回答、意見交換の概要は次のとおり。

(実習関連)

質問・意見等	回答等
<p>□近年の実習生の特徴、課題、学校の指導に求めることを伺いたい。</p>	<p>□覇気がない。以前の早稲田速記の学生は、就職したいという感じで元気よく実習に来ていたが、ここ何年か見ていると存在感がない。ただ単に来ていているという印象がある。</p> <p>□授業の一環で実習に行くという感覚があるのではないか。せつかくのチャンスなので、知りたいことをまとめてから実習に臨んでもらったほうがよい。実習している病院を就職に向けて考えているのであれば、深く聞くという積極性があるといい。遠慮しないで声をかけてほしい。</p>

<p>□挨拶の仕方とか時間を守るといった社会常識的なところはどうか。</p>	<p>□時間の面では、職員より早く出勤している学生が多く、しっかりしているというイメージがある。</p>
--	--

(就職関連)

質問・意見等	回答等
<p>□診療情報管理士と医師事務作業補助者の採用の点で、実務経験者と新卒が同じ土俵で試験に臨んだ場合、経験者が有利か。</p>	<p>□自分の考えを持っている経験者は組織の中で浮いてしまうケースがあり、調整が難しいので、できれば新卒者を採用して育てたい。</p>
<p>□状況によっては経験者を求める場合もあるか。</p>	<p>□経験者を採用しなければならない状況のときもある。</p>
<p>□診療情報管理室以外でもDPCで算定を行っている病院が多いが、医事課の採用においても診療情報管理士の資格者は有利に働くか。</p>	<p>□中途採用の募集をしても適当な人に巡り会えなかったときに、新卒者の求人に切りかえることはよくある。</p>
<p>□現在、診療情報管理専攻科で医療情報技師能力検定試験を受験させるため、その前段階の医療情報基礎知識検定を医療マネジメント科2年次に受験させている。しかし医療情報技師能力検定試験は8月実施の年1回で、対策を行う上ではスケジュール的にタイトな部分がある。そのため、毎月スケジュールが組まれていることもあり、国家資格のITパスポート検定を勧めている。ITパスポート検定を取得している学生はどのように評価されるか。</p>	<p>□複数応募者の人物像がイコールであれば、将来的に有資格者のほうがよいという判断は働くかもしれない。人物像が逆転していた場合は悩むと思う。</p>
<p>□診療情報管理士の資格取得を給料に反映する院内のシステムはあるか。</p>	<p>□私どもの法人では、診療情報管理士を目指している場合には診療情報管理士の資格を最優先に評価し、その次にITパスポート検定や医療情報技師能力検定試験を評価している。</p>
<p>□診療情報管理士の資格取得を給料に反映する院内のシステムはあるか。</p>	<p>□診療情報管理室に入るのであれば診療情報管理士の資格がないと受け入れられない。ITパスポート検定を持っていればパソコン技能の付加価値として、ある程度評価する可能性はある。</p>
<p>□診療情報管理士の資格取得を給料に反映する院内のシステムはあるか。</p>	<p>□システムはないが提案中である。診療情報管理士試験に落ちた人はその後なかなか受験しないので、給料に差がないのはおかしいと考えている。</p>
<p>□診療情報管理士資格の評価が高ければ学生のモチベーションが上がる。診療情報管理専攻科に進学し</p>	<p>□資格が給料に反映されれば、病院の人も診療情報管理士の資格を取ろうとする。</p>

<p>たいが経済的に難しいと考えている学生も多いので、学費が自分への投資として見合うものであるということになれば進学者は増えると思われる。</p> <p>□診療情報管理士認定試験に合格できず、内定取り消しになった学生もいたが、診療情報管理の勉強をした分のプラスがあるので、卒業までにほかの職種に再び内定した。</p>	<p>それ以前に、資格が取れなかった場合、内定取り消しというケースがある。</p> <p>□診療情報管理系の仕事が広がっている。医師事務、DPC、がん登録があるが、それ以外にもっと広がると思う。今、学会で、専門職としてのスキルアップと総合職としてのスキルアップを明確にする方向で検討している。給料に反映されることを願いたい。</p>
--	--

以上